

Information

相談のご案内

ひとりで悩んでいませんか?

〈女性の悩み電話相談〉 TEL.643-5813

●月～金10:00～20:00、土日祝10:00～16:00●

〈法律相談〉(予約制) TEL.642-8107

●第2-第4水曜日/13:00～15:30●

〈健康相談〉(予約制) TEL.642-8107

●第3水曜日/13:00～16:00●

- 相談の秘密は厳守します
- 相談は無料です
- 女性の相談員がお聞きします

施設紹介 情報・資料コーナー

館内に足を入ると、まず目に飛び込んでくるのが、冊子と図書を整然と並べているこのコーナー。真っ白い壁と書棚に囲まれて、広いテーブルで本を手に入れば流行のブックカフェのよう(ただし、飲食は不可ですが)。ここでは、男女共同参画に関する図書や資料の閲覧、貸し出しができ、パソコンによる情報検索やDVDビデオを視聴できます。

隣には交流コーナーがあって、椅子に座って冊子を読んでもいいし、グループでおしゃべりや講座に参加したあとの休憩にも利用できます。

- *貸し出しは図書(3冊まで2週間) ビデオ(2本まで1週間)
- *貸し出しには登録が必要です

図書のご案内



『ジェンダーの罫 とらわれの女と男』
諸橋奏樹:著
2001年(批評社)

一見かたい印象を受けるが、たとえば、いまも多くの人が性別による「女/男らしさ」は生まれつきのもので、それが仕事や役割の違いにつながるのであって、ごく自然で合理的なことだと考えているとある。ここで「あの上司がそうだ」「うちの親もそう」とピン!とくる人も多いのでは?

しかし著者はそれを諸科学の知見から観念的な神話だと言いつ切る。メディアリテラシー(メディアを読み解く力)の必要性を知ると同時に、読み終えるころには、世の中がまったく別の角度から見えてくる。

ジェンダー分野の本が初めてという人にもおすすめ。(W)

『働く女性のための仕事&子育てを応援する本』
とらば一ゆ編集部:著
2002年(メディアファクトリー)

22人の実例をあげて、仕事と子育ての両立のためのノウハウをまとめた本。共働き夫婦の良き協力関係が、ほとんどの場合、さまざまなバトルを経た、過去の努力のたまものだとわかって勇気がわく。

ただ、親に子どもの寝かしつけまでお願いすればDINKSと同じ状況になれると推奨したり、体力的に無理と親に断られても、本当に困ったときには無下にことわられないはずだという部分には、首をかしげたい。

本書はあくまで、いまが真の男女共同参画社会になる前の段階だからこそ、利用価値の高い一冊である。(W)



「鐘の音」創刊に寄せて

このたびパートナーシップさいたまの広報誌「鐘の音」創刊号が、市民の編集員5人のお力を得て、元気の足音をあげました。

男女共同参画のまちづくりを推進する拠点施設として、いろいろな情報を「鐘の音」にのせて発信してまいりますので、ご期待ください。

●はじめまして

男女共同参画社会をめざすってとついつい「こっ、いまのままではいけないの?」しゃあどつすればいいの? 答えは一人ひとり違うでしょう。私たち編集員も、それは同じです。

公募で決まった私たち市民5人の編集員が、皆さんと同じ目線で考え、悩み、課題を発見していきます。取り上げてほしい話題やテーマがあったらとっしと「パートナーシップさいたま」にお寄せください。

そしてパートナーシップさいたままで会いましょう。

(鈴木久美子・野田真章・長谷川真・吉岡万里子・渡部祐子)



パートナーシップさいたま広報誌「鐘の音」創刊号 2004年6月25日発行
〈編集:発行〉パートナーシップさいたま
さいたま市男女共同参画推進センター
〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町1-10-18(シーノ大宮センタープラザ3階) TEL.048-642-8107 FAX.048-643-5801
E-mail: danjo-kyodo-sankaku@city.saitama.jp



この印刷物は古紙の配合100%の再生紙を使用しています

もくじ

- 小さい子どもがいても安心して学べる・活動できる
パートナーシップさいたまーブレイルームってな～に?.....2・3
- 街角インタビューーパートナーシップさいたまって知ってる?.....2・3
- 学んでいますーさいたま市女性カレッジ.....3
- Information.....4



「パートナーシップさいたま」で
自分らしい生きかたを見つけれませんか

鐘の音

Kane-no-Ne

パートナーシップさいたま
さいたま市男女共同参画推進センター



(誌名の由来)
大宮の古い地名「鐘塚」に建てられたさいたま市の新しい拠点、「パートナーシップさいたま」から、男女共同参画推進の鐘の音を響かせたい、その願いを込めて名づけました。